令和2年1月1日発行（毎月1回1日発行）

JACIC news 2020

1月号/No.368

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

新年のご挨拶

理事長　深澤淳志（ふかさわあつし）

明けましておめでとうございます。

皆様には、日頃より当センターの事業に対し、深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は5月には新天皇が即位され、令和という新時代をめでたく迎えました。一方で、異常気象や多くの自然災害に見舞われた年でもありました。殊に、10月の台風第19号をはじめとした一連の豪雨は、東北、関東甲信越を中心に甚大な被害をもたらしました。

建設行政においては、「i-Construction貫徹の年」として、官民において建設事業へのICT導入に向けた取り組みが一層と進みました。

私どもJACICにおいても、国土交通省の行う各種委員会の運営やガイドライン作成等の支援を行うとともに、独自に策定した「JACIC 'i-Con' チャレンジ戦略」に改訂を加え、2本柱である「JACICクラウド」の構築と「現場まるごとi-Con化」を進めてまいりました。

「JACICクラウド」は、クラウド技術を用い、「公共調達基盤」「建設プロセス基盤」「社会情報基盤」の3つのプラットフォームを基盤として、3次元データをはじめとした情報を様々な関係者間で共有・活用するもので、これにより建設現場の効率化とあわせ、仕事の進め方の大革新を目指すものです。

昨年12月には九州地方整備局のご協力のもと、3次元モデルや各種建設データおよび映像を取り入れたWeb会議をクラウド上で実際に行うなどの試行運用を行い、いよいよ、今年から本格的に皆様にご利用いただけるよう、現在準備を進めています。この「JACICクラウド」のご活用により、皆様の仕事の生産性向上に是非お役に立てればと考えています。

「現場まるごとi-Con化」は、建設現場などにおいて新たな計測技術やIoT、AI、VR/MRなどの情報技術を活用することで、会議や説明会等の実施、災害時の対応など、現場における様々な作業やプロセスを改善するものです。

一例として、360度カメラを用いて災害現場全体を多くの関係者が同時に見渡しながら、復旧対応を協議するといった取り組みの検討も行っています。

JACICの建設情報システムサービスの一つであるコリンズ・テクリス・システムにおいては、昨年1月に大規模なシステム刷新を実施し、皆様に引き続き便利かつ確実にサービスをご利用いただけるようにいたしました。

また、電子入札コアシステムにおいては、有償化されたJavaシステムを利用しない新たなソフトウェアを独自に開発し、昨年11月にリリースを行ったところです。

今年は、コリンズ・テクリス・システムなど従来からの建設情報システムサービスの着実な運用と併せ、これまでJACIC内で培った知見を十分活用しながら、JACICクラウドを中心とした新たな3次元データ利活用のためのプラットフォーム整備を一層推進することで、政府の進めるi-Construction事業を全面的かつ積極的に支援していきたいと考えています。

私どもJACICは、災害時に際しても継続的かつ確実に事業の遂行ができるよう、非常用電源設備を備えた新事務所に、この1月に移転いたしました。新事務所では、全職員が気持ちも新たに仕事に取り組み、皆様方のご期待に沿えるよう一層努力する所存です。

今年も引き続き皆様方のご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

ニュースと解説

JACICで見た夢の実現へ

― JACICクラウドの構想から実装まで ―

新年を迎え、JACICクラウドの実装に向けて、システムや様々な手続き、実施体制など急ピッチで準備を進めています。昨年は、11月14日にJACICクラウド発表会を開催し、クラウドの具体的な仕様について公表しました。この時点でまだ検討中の部分もありましたが、これについても早々に明らかにしていきます。

また、12月11日には、国土交通省の協力を得て九州地方整備局の大分川ダム工事事務所、本局（企画部、河川部）、本省（治水課、河川環境課）の3者間でJACICクラウドによる情報共有の試行を行いました。（図-1）3次元モデルのみならず360°カメラを用いた映像なども交えてWeb会議を行い、効果の確認を行いました。所要の効果確認ができ、国土交通省の皆さんには、概ね満足いただけたと自負しています。我々も確信を持つことができ、準備に拍車をかけることができます。

図-1

本年のJACICクラウドの運用開始に向け、これまでの変遷を振り返ってみたいと思います。新年を迎え初夢は、1富士、2鷹、3茄子と縁起を担ぐと言われますが、JACICでは、1雲（クラウド）、2部屋（ルーム）、3お盆（プラットフォーム）とややうなされるような夢が縁起の良い正夢？となるのではないでしょうか。夢は新年だけでなく普段から大事で、それも夜寝る時というよりも常に見続ける、目標のような夢を大切にしたいものです。JACICに来て、i-Constructionの推進に携わり見た夢とともにJACICクラウド誕生までの経緯を紹介してみたいと思います。

着任した頃の夢

約2年前JACICのクラウド勉強会に参加しました。JACICでは以前からクラウドの勉強をしていて、クラウドにより色々なデータベースを繋いで利用する、そのためのAPI技術を学び、自ら使うことを考えていました。皆さんに便利なプラットフォームを構築する絵を描いていました。とても便利になるが、誰が何をするためにこれが必要か、まだ明確に提示してはいない状況であったと思います。これからはこういう時代が来ると漠然とした夢を見つつ、何をすべきか模索していました。周囲ではi-Constructionが進展している中で夢現の間で様子を見ていました。

チャレンジの夢

JACICでは、i-Constructionに関して国土交通省からCIM関係の仕事を受託し、ガイドラインや要領等の作成などCIMにかなり関わっていました。ガイドラインや要領等の充実によりCIMが推進すると、測量・調査から維持管理までの情報共有環境の構築が重要となり、国土交通省の説明資料にも頻りに建設プロセスの関係者間を情報が回る絵が使われました。CIMに関わり、情報提供を生業にしているJACICの去就が注目されてきました。そこで、2018年5月にJACICのi-Construction推進に向けての自主活動を急遽とりまとめ、「JACIC 'i-Con' チャレンジ戦略」（以降「チャレンジ戦略」という）を公表しました。JACICの公共調達に関する情報提供の強みを生かしながら建設プロセス間の情報提供やプラットフォームを活用した社会基盤の情報共有など3つのタイプを有するJACICクラウドを提案しました。また、CIMのみならず建設現場における様々な活動でICTを活用することが生産性の向上や働き方改革につながるという本質的なことも提案しました。やっと目指す方向が明確になり、チャレンジする夢を持つことができました。しかし、具体性はまだまだでゴールは夢のまた夢という状況でした。

膨らむ夢

チャレンジ戦略という核ができて、JACICでは体制を強化し、プロジェクトチームを充実、新たに発足させて取り組みました。こうした中でチャレンジの夢はどんどん具体的に内容を充実し、膨らんでいくことになりました。この時期にチャレンジ戦略の根幹をなすアイデアをいくつかまとめることができました。

（1）新現場力

建設生産性革命の実現には、現場力の低下という現場の課題を克服することが重要で、ICTによる新たな能力

ニュースと解説

（新現場力）による仕事の効率的、効果的な仕方や高度化を提案しました。ICTによる新現場力を通じて現場技術力を高めることから働き方改革を進め、建設生産性の向上を図るとともに、新たな現場経験による現場技術者の技術力の向上、人材育成につなげるというものです。この新現場力を目標と据えました。

(2) Digital Twin

2018年3月のbSIパリサミットでDigital Twinの発表を見て、即時にこれだと思い、帰国後すぐにその発表をヒントに日本での整理を行いました。Digital Twinを学んでいくと土木の世界で親和性が十分あることがわかり、クラウドの重要性が高まりました。製造業等とは違い、異常時や災害時に即時にオペレーションやマネジメントに利用する必要があり、クラウドの即時性、同時性が極めて有効です。Digital Twin（後述）は今後のオペレーションやマネジメントの主流となるでしょう。このため、土木の各分野において実装するため、考え方から手順まで現在も検討を続けています。新現場力による新たなマネジメントの実現です。

(3) ICTは“一石二鳥”の改善効果

現場まるごとi-Con化のユースケースを整理していくと一つのICTで複数の改善効果が得られることがわかりました。社会基盤標準化委員会特別委員会の提言「建設生産･管理システムのあり方に関する提言～「新現場力」による創造的な現場環境の創出～」において6つの評価軸で検証されています。例えば、省力化ができれば、コストや時間も改善されることはわかりやすいと思います。建設生産性向上や働き方改革には、ICTは効果が大きいということです。

正夢へ

チャレンジ戦略も1年半超で5回改訂を行いました。考えながらまとめ、確立していくという自転車操業ではありますが、皆さんと戦略の共有を図りながら方向を決めてきました。昨年12月10日改訂の最新のチャレンジ戦略に「JACICクラウドの魂」「JACICクラウドの具体的な提供サービス」として直轄事業の仕事の仕方について新たな提案、つまり新現場力による新たなマネジメントの提案を行いました。いよいよ実装に向けた夢、正夢を見られるようになりました。

(1) JACICクラウドの真に目指すもの

JACICクラウドは、3つのタイプのプラットフォームの提供により、様々な関係者間でいつでもどこでも多種多様な情報の共有や利活用を即時・同時、効率的、効果的に行えるようにします。

ルーム関連の3機能、3次元管内図、データ利用・管理の規定と手順書等を整備、実装することにより、Digital Twinを実現し、業務の効率化、高度化を図ります。

そして、前述した新現場力の実現を図り、i-Constructionを推進するとともに、新たな現場経験による現場技術者の技術力の向上、人材の育成を図ります。（図-2）

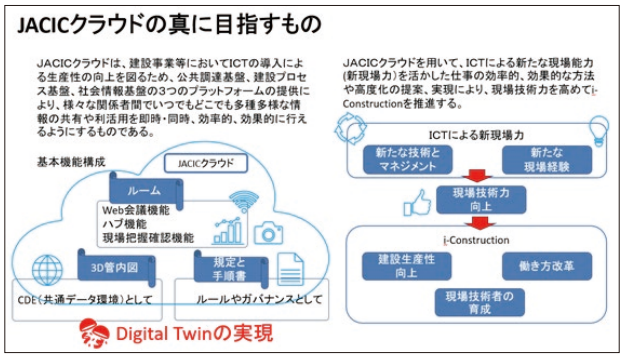


図-2

(2) ルーム関連の3機能

サイバー空間上の会議室機能、情報のハブ機能、現場把握確認機能の3機能を提供します。3次元モデルやデータ等を即時・同時に共有でき、意見交換を行える環境を構築します。その際に360°カメラなど現場からの画像・映像等を利用することができるようにします。

(3) 3次元管内図（事務所版インフラデータプラットフォーム）

管内において3次元の地形モデル等を基盤に様々な構造物等のデータや測量データ、IoTやセンサーからの計測データ等を統合した3次元管内図（統合モデル）等を作成します。属性情報の活用や巡視点検等のシステムとの連携により、履歴、点検・観測・分析等のデータ、設計資料等の様々なデータを総合的に集約管理でき、データベース等との連携で台帳やカルテの機能も有します。

(4) データ利用・管理の規定と手順書

3次元管内図の活用のため、データやモデルの検索や更新、利活用の規定を定めます。また、事業や管理の工程表を基にデータやモデルの作成・利用のための「データ・モデル工程表（情報プロセスマップ）」を作成し、プロセスごとに対象となるデータやモデルの取り扱いの手順を明確化して事業や管理のマネジメントを適切に行える手順書を作成します。

(5) 統合モデルを用いた新たなマネジメント

データ・モデル工程表や手順書を用いた新たなマネジメントで統合モデルや個別モデルを活用しDigital Twinを実現することにより、行政管理、維持管理、事業監理、防災等を効率的、効果的に行うとともに高度化を図りま

ニュースと解説

す。手順書に基づくPDCAサイクルを回すマネジメントを導入し、検証、評価を行いながら、ICTによる新現場力に合った仕事の仕方を確立していきます。

このためには、行政管理者が測量・調査から維持管理までの各段階において自らのために適宜使えるデータ利用環境が必要であり、JACICクラウドでは、行政管理者へ年間契約を通じて統合モデル等を一貫して継続的に利活用できる環境を提供します。（図-3）

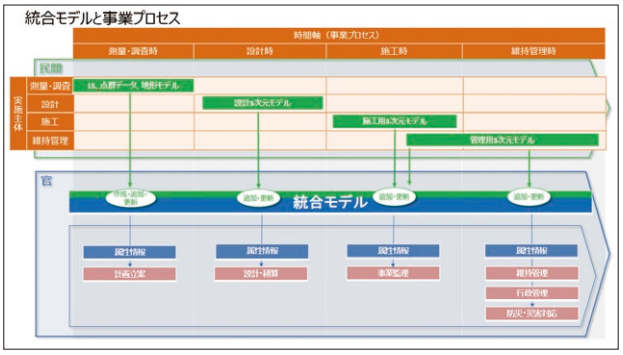


図-3

(6) Digital Twinの実現

フィジカル空間の実物とサイバー空間の仮想実体（3次元モデル等）が双子の実体として捉えられるDigital Twinを利用してオペレーションやマネジメントを行います。その際にサイバーフィジカルシステムが有効で、土木の分野では、異常時、災害時の対応を組み入れた利用が重要です。（図-4）

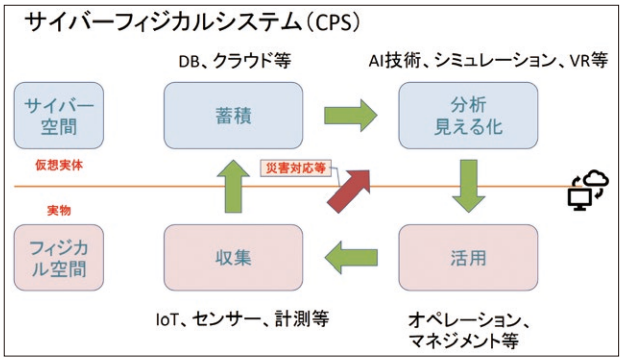


図-4

Digital Twinの実装にあたっては、フィジカル空間とサイバー空間において事業や管理の工程が適切に進められ、目標を達成していく仕組みが必要となります。フィジカル空間とサイバー空間の関係を整理し、両空間において事業や管理の工程に基づき、それぞれの工程表と手順書を作成し、PDCAサイクルを回すことを提案しました。工程や手順も双子なのです。（図-5・図-6）

Digital Twinにおける実物空間と仮想空間の関係

	対象物	工程	手順	ルール	操作
実物空間（フィジカル空間）	実物	工程表	作業手順書	基準・要領等	オペレーションマネージメント
仮想空間（サイバー空間）	3次元モデル	データ・モデル工程表（情報プロセスマップ）	データ・モデル手順書	データ・モデル規定	データ分析シミュレーション

図-5

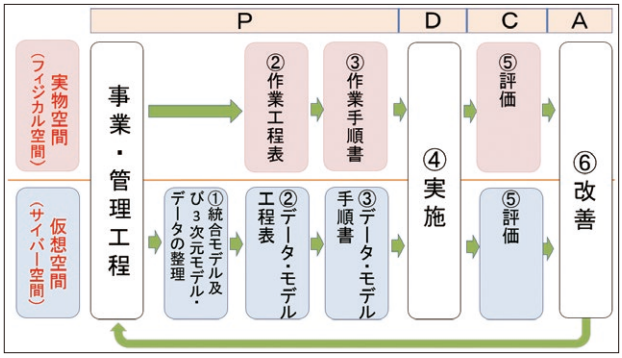


図-6

さらにBIM/CIMモデルに加え、変化するプロセスや状態把握を組み込むため、数値解析、GIS、IoT、点群データ、画像・映像技術等との連携を図ります。

チャレンジ戦略において、我々は新現場力による新しい仕事の仕方を提案してきました。このために必要なものを具体的に示し、足り無いものは用意をしなければなりません。こうした中で最も必要となったものがJACICクラウドでした。行政管理者（発注者）が3次元管内図（統合モデル）を継続的に利用し、クラウドのルームにおいて3次元モデルや映像等を見ながら平常時のみならず災害時にも会議を行えるようにする必要がありました。このため、情報共有環境として工事情報共有ASP等では対象としていない範囲をカバーする必要があり、JACICクラウドを構築することにしました。さらに現場でのクラウドの様々な活用が今後見込まれ、早急に構築を進めてきました。

JACICクラウドは、官民を問わずDigital Twinの実現に貢献するクラウドの提供を目指しています。提供サービスは、最初、主に行政向けの基本的なサービスの提供から始め、利用者のニーズや連携できる様々なサービスを勘案して、順次提供サービスの充実を図って参ります。

着任時の夢現の状態から夢は、形を持ち真に正夢となり、さらに大きく膨らんでいきます。我々と一緒に将来の夢を見ませんか。そして実現してみませんか。

（理事　尾澤卓思）

JACIC便り

大分川ダムにおけるJACICクラウド・ルーム機能の試行について

1. はじめに

JACICでは令和2年度からJACICクラウドの運用を開始する予定です。運用開始に先がけ、国土交通省水管理・国土保全局、九州地方整備局、大分川ダム工事事務所のご協力をいただき、JACICクラウドで提供予定のルーム機能の試行を行いました。ルームの持つ様々な機能を参加者に実際に体験いただくとともに、活用方法や課題について貴重なご意見をいただくことができましたので、概要を報告します。

2. 試行の概要

(1) Web会議

国土交通本省、九州地方整備局および大分川ダム工事事務所の3か所を結んだWeb会議を実施しました。ルームで提供するWeb会議は、ファイル共有機能、3次元モデルのビューア機能、360°カメラを用いた現場把握確認機能を活用することで、即時性及び同時性を持って様々なデータを共有することが可能です。インターネット接続環境さえあれば、スマートフォン等を使ってどこからでも参加することができます。また、会議の発言を音声認識で即時にテキストとして保存する機能も有しています。

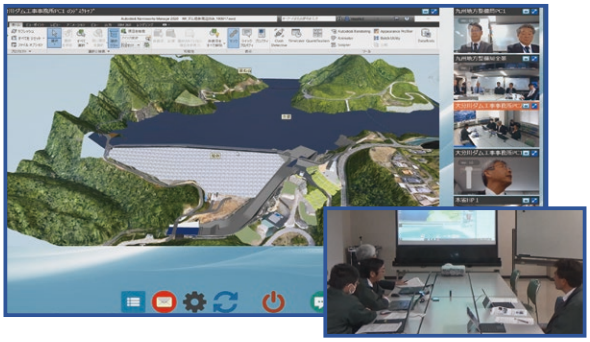


図1　Web会議の状況

(2) ファイル共有機能

ファイル共有機能は、ルームの基本となる機能であり、ルームの参加者が必要なファイルを登録しておくことで、Web会議をはじめとして、様々な場面でファイルを共有・閲覧することが可能となります。

(3) 3次元モデルのビューア機能

最近、様々な場面で3次元モデルの活用が進んでいます。例えば、施設の完成予想図による景観の検討や関係者間の合意形成への活用、さらに3次元モデルに様々な属性データを関連づけして整理することで設計・施工・管理業務の合理化が図られています。これらをより有効に活用するために、3次元モデルを特別なソフトウェアを導入することなく、図1のようにWeb会議等において共有・閲覧を可能とするのが3次元モデルのビューアの機能です。

(4) 360°カメラを活用した現場把握確認機能

360°カメラは全方位の情報を一枚の画像で把握できる有効な手法です。試行では、360°カメラ情報共有システムを用いて、大分川ダム貯水池周辺の状況をWeb会議の参加者に共有していただきました。このシステムでは、現場で撮影した画像をその場で撮影地点の位置情報も併せてクラウドにアップデートすることで、図2に示すように地図上で位置を確認しながら、画像を確認することができます。

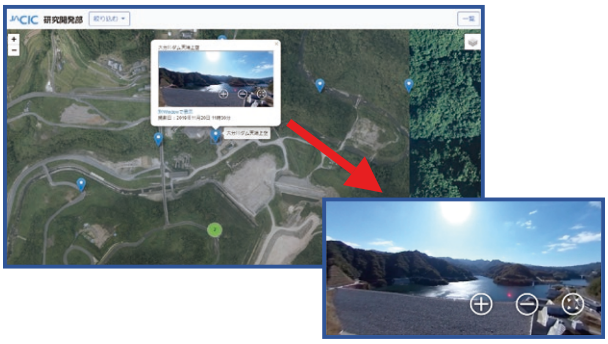


図2　360°カメラ情報共有システム

ドローンに360°カメラを搭載して撮影した動画の共有も行いました。ドローンに搭載することで、人が近づけない箇所での撮影が可能となり、動画とすることでより広範囲の情報を得ることが可能です。併せてVRによる画像データの閲覧も行い、よりリアルな現場状況の把握を体験いただきました。

3. 本格運用に向けて

今回の試行は、来年度から運用を開始するルーム機能で提供予定の種々の機能を、実際に想定される利用環境で使う初めての機会でしたが、Web会議の参加者が即時性、同時性を持って様々な情報を共有できること、容易に現場の必要な箇所を確認できること等、実用上、十分な機能を有していることを確認できました。一方で、各機能の操作性等に関して、本運用までに解決すべき課題も明確になりました。

ルームの各機能を体験いただいた国土交通省の方々からも一定の評価と利用方法や拡張してほしい機能等の提案をいただくことができました。JACICでは、いただいた意見をサービスに反映させるとともに、明確になった課題を解決し、本運用を向かえるべく、準備の最終段階に全力を上げて取り組んでいるところです。

(河川・ダム・防災情報技術に関するプロジェクトチーム
桜井　力)

JACIC便り

JACICクラウド発表会＜第1部＞ 第21回建設情報研究所研究発表会の開催報告

JACICnews No.365（2019.10月号）にて開催をご案内しました「JACICクラウド発表会」を、11月14日にTKP赤坂駅カンファレンスセンターにおいて、約160名の方々にご参加いただき、開催いたしました。

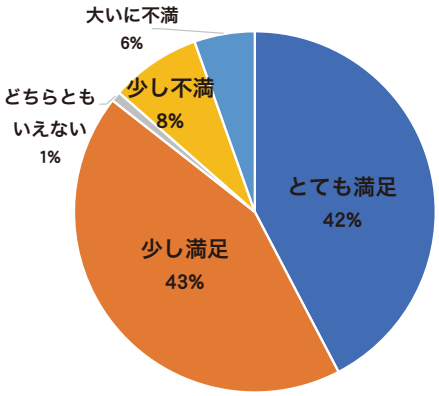
＜第1部＞の建設情報研究所研究発表会では、6題の研究について発表しました。今月号では研究発表会について、アンケート結果を中心にご報告します。

アンケート結果の概要

アンケートにご回答いただいた138名の方の所属、及び研究発表会の満足度はグラフに示す通りとなりました。これらの結果より、多方面の業種から発表会へのご参加があったこと、さらに、ほぼご満足いただけたことが分かりました。

また、各発表内容の「有意義さ」に関する設問で、「おおいに有意義」または「少し有意義」と回答された方の人数を比較した結果（下図）では、「JACIC クラウドによる新現場力の実現」が最も有意義と評価され、

＜第1部＞研究発表会の満足度



次に「3次元モデルやデータを活用したダム事業監理・維持管理の効率化に向けた提案」が有意義と評価されました。

「JACICクラウド」に関するご意見

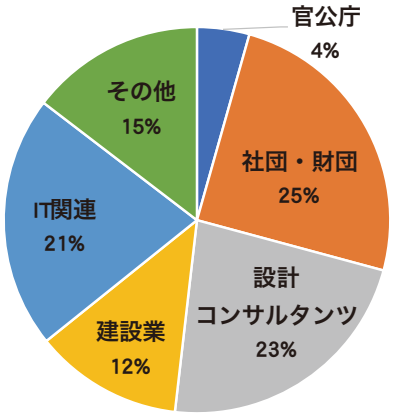
今回発表した、JACICの新サービスの核となる「JACICクラウド」については、受講者の方から「ルーム（Web会議）は災害時に非常に有効」「JACICだからこそ出来ることを期待する」というご意見をいただきました。また、「災害情報共有システムと連携すればなお良い」「システムの統一化ができればと思う」というご提案がありましたので、今後の検討課題といたします。

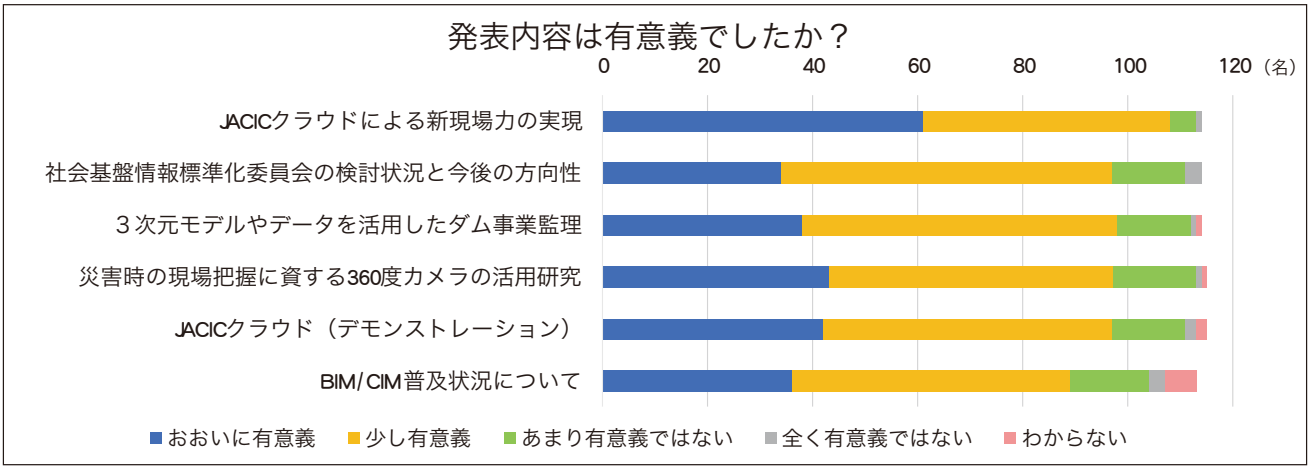
発表資料はJACICホームページ（無料）に掲載しました。発表の様子を撮影した動画はJACIC NET（会員制）からご覧いただけますので、ご活用ください。

http://www.jacic.or.jp/

（建設情報研究所　研究員　清水知子）

参加者の所属





JACIC便り

「令和元年度コリンズ・テクリス利用者会議」開催報告

令和元年11月29日（金）に、弊財団が運営するコリンズ・テクリス（工事・業務実績情報情報システム）に関して、利用者（発注者、受注者）からの意見・要望をお伺いするための「令和元年度コリンズ・テクリス利用者会議」を開催しました。

昨年度は、利用者の皆様のご意見等を踏まえて、本システムのリニューアルを実施したため、開催を見送らせていただきました。

今回の会議では、平成31年1月7日に実施したシステムリニューアル後の皆様のご意見等をお聴きすることを主目的として開催しました。

会議では、コリンズ・テクリスの概要、システムリニューアルの報告に加え、JACICクラウドの運用開始に伴うコリンズ・テクリスの新たなサービス（シングルサインオン、平準化率のデータ提供）についても説明を行うとともに、事前に実施した利用者意見募集（アンケート調査）の結果を報告し、出席者との意見交換を行いました。

1. 出席者

(1) 発注者：国、地方公共団体

(2) 受注者：建設業関係団体、建設コンサルタント関係団体、地質調査業関係団体

利用者会議の様子

2. 利用者アンケート結果

(1) 募集期間

令和元年9月17日（火）～10月4日（金）

(2) 対象

システムを利用している発注者（公共発注機関）及び受注者（企業）

(3) アンケート方法

・Web上でのアンケート調査

(4) 項目：システム全体の満足度、システム運営の満足度、システムリニューアルで改良した機能についての満足度、その他コリンズ・テクリスに関する意見等について

(5) 回答数：発注者387、受注者1,196

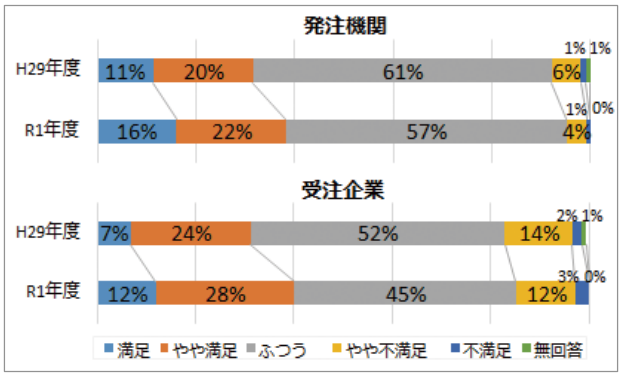
(6) 主な結果

○システムの全般的な満足度

発注者（検索システム）、受注者（登録システム）とも前回（H29年度）に比し、「やや満足」以上の評価が増加しており、システムリニューアルを経て、満足度の向上が見られる評価をいただきました。(図1)

※その他のアンケート結果は、JACICのホームページ上で公開しておりますので、ご覧ください。

◆図1　システムの全般的な満足度



3. まとめ

・今回は過去最多の回答数をいただきました。リニューアル後であったこと、これまでの12月アンケート実施に比べ回答しやすい時期であったことが増加要因と思われます。

・システムリニューアルについては、アンケートでも一定の評価は頂きました。

・出席の関係団体からは、アンケートに寄せられた意見及び今回のリニューアルで見送った改良等についての今後の対応への要望がありました。

・出席の発注機関からは、2020年度からサービス提供を開始するJACICクラウドについても関心が寄せられました。

・コリンズ・テクリスセンターでは、今回の利用者会議及びアンケート調査でいただいたご意見、ご要望等を踏まえ、今後の更なるサービス向上を図ってまいります。

当日の資料及び議事概要は、以下のJACICホームページをご参照ください。

http://www.jacic.or.jp/meeting/coritec/index.html

（コリンズ・テクリスセンター　次長　金澤知集）

地方便り

中部地方センターの活動

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

中部地方センターでは、平成7年4月発足以来、管内の愛知県、岐阜県、三重県、静岡県及び長野県南信地域を対象に、建設情報に係る各種システムの普及・促進などJACIC業務を通して地域支援を行っています。

特に一昨年度より、建設生産プロセス全体の生産性革命の実現に向けた重要施策である「i-Construction」を積極的に支援する「JACIC 'i-Con' チャレンジ戦略」を掲げ、2本柱である「JACICクラウドの構築」と「現場まるごとi-Con化」を本部と協働して推し進めているところです。

■賛助会員の皆様との意見交換会

平成28年度より管内の賛助会員の皆様との意見交換会を実施しています。今年は、10月3日（木）に愛知県の賛助会員16社（25名）ご出席のもと、「i-Constructionの推進」をテーマに行いました。最初に尾澤理事より「i-Conの推進に係るJACICの取り組み」について情報提供し、次に賛助助員の皆様より「i-Conに関する取り組み状況及び意見・要望等」を発表いただいき、意見交換しました。（開催報告：JACIC news 11月号No.366参照）

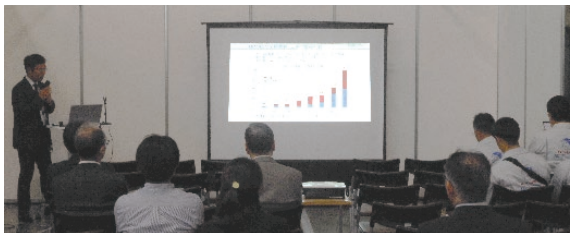
意見交換会の状況（10月3日）

また、事前にいただいたコリンズ・テクリスに関するご意見・ご要望について、11月中旬～12月上旬に会社訪問し、ご説明等させていただきました。

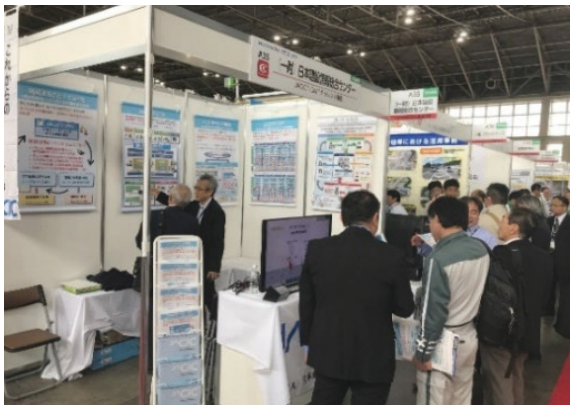
■建設技術フェア2019 in中部への出展

令和元年10月16日（水）～17日（木）、吹上ホールで開催された「建設技術フェア2019in中部」に出展するとともに、出展技術の「JACIC 'i-Con' チャレンジ戦略」についてプレゼンテーションを行いました。

出展者数は243社・団体、のべ来場者数は14,885人（事務局発表）と盛況な2日間となり、当ブースへ多くの方にお立ち寄りいただき、JACIC業務の取り組みに関心を持ち、ご理解をいただきました。



小川部長によるプレゼンテーション（10月16日）



JACICブースの状況（10月17日）

■教育機関へのBIM/CIM講義

平成29年度よりこれからの建設分野を担う学生の皆様に対して、土木分野のBIM/CIM活用状況や土木技術者のあり方等について、坪香顧問による講義を行っています。

昨年は、7月17日（水）に名城大学、10月29日（火）に名古屋工業大学にて講義を行いました。今年は豊田高専と岐阜高専を含め、全4校で実施する予定です。

名城大学での講義（7月17日）

名古屋工業大学での講義（10月29日）

（中部地方センター長　澤頭芳博）

JACIC通信

国際会議ICCBEI2019(仙台)参加報告

令和元年11月6日～8日に仙台において開催された、第4回土木建築情報学国際会議（ICCBEI2019）に、JACICは深澤理事長以下9名が参加し、6編の論文を提出・プレゼンテーションを行いました。

1．ICCBEI国際会議とは

ICCBEIとは、International Conference for Civil and Building Engineering Informaticsの略で、「土木建築情報学国際会議」と訳しています。アジア各国・地域の建設情報分野の先生方が2013年に設立した国際会議で、2年ごとに開催され、今回は第4回ということで仙台にて開催されました。

主催は、アジア8か国・地域の先生方で作るAGCEI（Asian Group for Civil and Engineering Informatics）というグループおよび土木学会土木情報学委員会です。今回は同委員会の委員長で宮城大学の蒔苗耕司教授がホスト役を務めました。

主催者AGCEIの議長は大阪大学の矢吹教授が務めており、JACICは会議の設立に貢献した団体という立場になっています。

これまで2013年と2015年は東京開催、第三回は2017年に台湾にて開催されて来ました。

2．開会式と基調講演

会場は、「せんだいメディアテーク」で、参加者は約100名とのことでしたが、日本人は少なくて中国系外国人が多い国際会議となりました。この分野のアジアの研究者も少しずつ増えていることを感じました。

会議は、開会セレモニーに続いて基調講演が行われました。「土木建築工学におけるICT」という題で米国スタンフォード大学のキンチョー・ロー教授から、ここ30年間の技術の推移と将来についての概括的な講演でした。

図1　ロー教授の基調講演

3．パラレルセッション

JACICからは、以下の6編の論文が提出され、それぞれのセッションの中で12分間のプレゼンテーションを行っております。

テーマ	発表者	JACIC 所属
三次元標準化戦略	宮本勝則	建設情報研究所
三次元出来高管理	影山輝徳	研究開発部
JACIC システム一元化	横山善行	システムエンジニアリング部
電入システム高度化	石渡啓晋	システムエンジニアリング部
CIM チャレンジ研修	桔梗康之	積算システムセンター
問合せデータ解析	河内　康	電子入札支援センター

図2　パラレルセッション時の質疑応答

4．今後のICCBEI国際会議

会議中に開催された「AGCEIボードミーティング（理事会）」には、メンバーの一人であるJACIC理事長も参加しましたが、この中で香港代表のチャン准教授から次回2021年の第5回会議への立候補があり、香港開催が承認されました。

図3　閉会時の集合写真

（国際グループ　河内　康）

■編集・発行　一般財団法人日本建設情報総合センター
〒107-6114　東京都港区赤坂5丁目2番20号　赤坂パークビル14階
TEL.（03）3505-2981〈代表〉　FAX.（03）3505-0414
ご意見・お問い合わせ先：http://www.jacic.or.jp/about/syozai/syozai.html
JACICホームページ　http://www.jacic.or.jp/

編集・構成　日本印刷㈱
電話　03-5911-8660